

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入) 平成 25 年度

事業所番号	2775501824		
法人名	社会福祉法人 寿昌会		
事業所名	ケアホーム山本苑		
所在地	大阪府八尾市長池町3丁目21-7		
自己評価作成日	平成25年11月10日	評価結果市町村受理日	平成25年12月20日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ ナルク福祉調査センター		
所在地	大阪市中央区常盤町2-1-8 親和ビル4階		
訪問調査日	平成25年11月27日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「手作り介護」の理念のもと、定員5人という少人数制で、行き届いた介護、その人にあったサービスを提供します。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

施設は八尾市の住宅地で、廻りは田畑があり緑豊かな場所である。同敷地内に軽費老人ホームA型山本苑(50名)、ケアハウス山本苑(15名)、デイサービスセンター山本苑(14名)、があり当施設と連絡を密にして運営している。当グループホームは定員5名でゆったりとした、家庭的でゆとりのある介護支援をしている。職員も時間的に余裕がある、きめ細やかな支援をし、家族よりも安心・安全な対応だと大変喜ばれている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域の中でその人らしく生活することを支え、1人ひとりの人格を尊重した「手作り介護」を理念に掲げ、家庭的な雰囲気の中で、管理者、職員全員が取り組んでいる。	理念は「地域の中でその人らしく生活する事を支え入居者ひとり一人の人格を尊重した手作り介護」で玄関前に掲示され、職員は朝礼時・会議時に確認しあい、介護に活かしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域高校との交流(訪問の受け入れ、文化祭への参加)を毎年行っている。地域の幼稚園児、中学生、高校生の訪問の受け入れ、地域の行事(市民スポーツ祭、消防訓練)へ参加する等、積極的に地域との交流を図り、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	地域との交流は積極的に行い、地域の芋掘りや高校の福祉研修の受け入れ、中学生の実体験の受け入れ、幼稚園児との交流、ボランティアの受け入れ等又施設の防災訓練には、地域の住民も参加してもらい、双方向の交流をしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域高校生との交流を毎年行い認知症の人の理解や支援の方法を学べる場としている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議で、サービスの実際、評価への取り組みや状況等について報告し、話し合いを行っている。また、意見が出た場合には、それをサービスに生かしている。	二ヶ月に一回年六回開催された。参加者は市・民生委員・高齢クラブ・入居者・管理者・職員出席のもと、色々な情報を交換して、運営に反映させると共に、施設よりは運営の状況を説明し、理解を得ている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	外部評価結果等について市へ報告を行っている。市主催の会議にも積極的に参加し、協力関係を築くように取り組んでいる。また地域包括支援センターへの働きかけも行っている。	市とは運営推進会議に、介護保険課や健康管理課の方の出席や、市主催のグループホームの分科会にも参加してもらい、色々な情報を交換をして、運営に反映させると共に協力関係を築くべく取り組んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	事業所において、介護保険指定基準の身体拘束禁止規定を定めている。また、身体拘束等の排除のための取り組みについての事業内研修を行い、職員全体が玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアを正しく理解し、実践に努めている。	身体拘束に関するマニュアルがあり、研修をしている。職員は主旨を十分理解し、介護に取り組んでいる。玄関のキーは夜間は施錠している。安全性に配慮し、玄関の防犯カメラの設置をしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	高齢者への虐待防止について事業所内研修を行い、職員全員が高齢者への虐待防止について正しく理解している。また、利用者への虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	事業所内研修を行い、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、利用者で必要な方がいれば支援できるようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約をする際は、十分な説明をするとともに契約書を持ち帰ってもらい、もう一度熟読してもらい、署名押印をして頂くようにしている。また、不安や疑問があった場合は、再度説明等を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者、家族等の意見、要望を訪問時に聴くとともに、意見箱を設けている。 また、便りや書類を御家族に送付する際には、意見、要望等記入用紙をいっしょに送付し、意見要望があれば返信して頂いている。 意見、要望があれば運営に反映し実行している。	利用者や家族の要望・意見は年二回の家族会や山本苑だよりに同封している要望書等、又家族の訪問時に確認し、運営に反映させていると思っている。現在はほぼ要望どりの介護が出来ている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は職員の意見や提案があれば、その都度聞き、運営に反映させている。また、管理者とともに月一回職員全体会議を開き、意見や提案について話し合いを行っている。それ以外に、いついかなる時でも、気楽に話せる関係を構築している。	職員と管理者の会議は月一回開催され、要望・意見をまとめている。会議では、自由・活発に行われている。例えば職員より利用者の部屋の変更提案に即対応している。又朝のミーティング時にも問題があれば意見を出し合っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、やりがいのある職場環境づくりを行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者は職員が外部研修に参加できるように支援するとともに、事業所内でも研修会を月一回開き、すべての職員が質を向上できるように支援を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	代表者は管理者が地域連絡協議会に参加できるように支援し、同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会を通じてサービスの質を向上させていく取り組みをしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居される前に十分聞き取り調査等を行い、利用者本人の声に耳を傾け、信頼関係が築くことができるように努めている。また、必要があれば、入居される前に、日中、施設で過ごしてもらうなどし、施設での生活を体験できる機会を設けている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	相談の段階で、御家族の要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時に軽度の認知症の方へは、併設施設の軽費老人ホームへの入所を勧めたり、その人にあった他の介護施設を紹介する。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は利用者に家事等を手伝って頂くという姿勢で接している。利用者の言葉を年長者の言葉として受け止め、尊重して、接している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族との絆は、職員によるどの介護よりも利用者の心の支えであると理解し、御家族が利用者と積極的なかわりとなるよう、支援を行っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ほとんどの利用者が併設施設からの利用者なので、馴染みの人との関わりが持てるよう、併設施設の行事への参加、併設施設での入浴等を行い、施設に閉じこもることなく、大勢の方との交流がもてるよう支援に努めている	馴染みの人や場所の継続に関しては、入居時に本人・家族より生活歴・要望等を確認し対応している。家族・友人・同施設内の旧友との関係を大切にしている。美容院・スーパー・コンビニ等へ行くなど、家族の協力を得ながら外出支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を考え、談話の際話が弾むような席の配置にしている。また、利勝者同士が自然と助け合える関係が作れている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用者の方が他の施設に移られても定期的に職員が訪問を行う等し、関わりをもてるよう努力している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員1人ひとりが本人の意思を尊重し、意思確認を行いながら、その人らしく暮らしていけるように支援している。	入所時に本人・家族より、生活歴・要望等を把握・確認し支援に努めている。入所後は日々の会話・表情より推察し、本人の希望に沿った支援に努めている。又本人より確認が困難な場合は家族より確認し支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴や馴染みの暮らし方に配慮し、以前デイサービスを利用されていた方であれば、併設施設デイサービスに参加している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの心身の状況を把握するように努め、些細な体調の変化等にも気をつけるように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月一回職員全体会議を開き、各利用者についての現状や課題、ケアについて全職員が意見を出し合えるように話し合い、必要があれば、御家族にも相談しながら、モニタリングを行い、それを踏まえ、介護計画を作成している。	入所時にドクターの情報やアセスメントによりケアマネジャー・職員間にて検討し介護計画書を作成している。見直しは毎月のモニタリングを参考に、介護度変更時・体調変化時に対応し、家族にも十分説明し了解を得ている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアの実践・結果、気づき等を個別に記録し、職員間で情報を共有し、ケアの実践、介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の状況を踏まえ、併設施設のデイサービスを無料で利用できるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の老人会、幼稚園児、小学生等の交流などで、グループホームの存在を知ってもらっているため、連絡対応がしっかりしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。かかりつけ医については重要事項を説明する際に了承を頂いている。また本人、家族が希望する医療を受けられるように支援している。入院設備のある医療機関、歯科等と連携をとっている。	かかりつけ医は入所時に本人・家族と相談し決めている。現在は全員施設の協力医となっている。協力医とは月一回の往診、歯科医とは週一回の体制で、特殊な科への受診は施設の支援により対応している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	併設施設の看護師による毎日のバイタルチェックをはじめ、提携する訪問看護師への相談し、適切な受診や看護を受けられるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入院した際には、定期的に様子を見に行き、病院関係者と相談しながら早期退院できるように支援を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	提携医療機関、訪問看護師と連携がとれる体制のもと、本人・家族、主治医と話し合いながら取り組んでいる。終末期は提携医療機関との信頼関係に基づいて取り組んでいる、身寄りのない方は法人の理事長、後見人をたてている。	重度化や終末期の対応は重要事項説明書に簡単に表記されている。別に「重度化対応・終末期ケア対応指針書」に基づき、入所時に十分説明している。過去に看取りの経験もあり、職員への研修も看護師の協力により体制を整えている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	利用者の急変や事故発生時に備えて施設内研修、普通救命講習の受講している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害対策として、避難訓練を行うとともに地域での防災訓練等があれば参加し、協力関係を深めている。また、併設施設の宿直者と連携している。	年三回の訓練一回は消防署指導の下、二回目は施設の自主訓練、三回目は消防署の点検を受け行っている。訓練はグループと合同に行い地域の方の参加も得て、夜間の想定もしている。職員は近隣の方も多く即対応が可能で、マニュアル化もされ、備蓄もされスプリンクラーも設置予定である。	基本の訓練は出来ているが、もう一歩進めて月一回の訓練デイを設けスキルアップを図るとともに、設置予定のスプリンクラーを出来るだけ早くし、安心・安全な施設を望む。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシーの確保や人格の尊重について職員研修を行い、また、適切な言葉かけや対応が出来るか各職員が自己評価する機会を設け、確認を行っている。	マニュアルは「プライバシーの保護・人権の尊厳について」のテキストに基づき研修し、主旨を十分理解し、適切な言葉かけをし支援に努めている。書類に関しても書庫に厳重に保管されている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の希望や意思を聞きながら支援を行っている。介助の際も、本人の意思を尊重し、声かけをしながら行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その人のペースで生活出来るように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その人らしい身だしなみやおしゃれが出来るよう支援し、月一度の訪問理容を利用している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備、後片付け、おやつ作り等を職員と利用者が一緒に行い、食事を楽しむことが出来る環境作りをしている。また、外食することがある	メニュー・食事はグループの軽費老人ホームA型山本苑より配達され、職員が調理し、一緒に楽しく家庭的な雰囲気のもと食事をしている。利用者は食事の準備・後片付け・おやつ作りを一緒にしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	牛乳嫌いの方がいるため、バナナジュースを手作りする等し、1人ひとりの栄養バランスや水分量を職員全体が把握し、状態や習慣に応じた支援を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	月2回歯科衛生士に来てもらい、口腔ケアを受け、問題のある方は、歯医者への送迎を行っている。又、歯科衛生士の助言のもと、職員が一人ひとりにあった毎日の口腔ケアを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	排泄チェック表より時系列に記録されたデーターを基に排泄パターンを把握し、自立に向けた支援に努めている。トイレへはそれとなくプライバシーに配慮しトイレに誘導し、その後トイレにて出来る様になった人もいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	主治医と連携をとりながら、便秘予防を行っている。出来る限り、便秘薬に頼らず、排便ができるように支援を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴は週3回以上入れる支援をしています。利用者は法人併設のデイサービスにある天然石温泉の利用で入浴時間を楽しんでいます。デイサービスにはリフト浴やシャワー浴もあり、ホーム内の浴室と共に、利用者一人ひとりが希望や体調により選択することができ、入浴環境を楽しめる支援を行っている。また、グループホーム内にある浴槽も利用している。	入浴は週3回以上、時間は午前中を基本としているが、柔軟に対応している。入浴を楽しめる様に、入浴剤を使用したり、シャワー浴・足浴・デイサービスにある天然石温泉を利用したりと楽しく入浴している。入浴が嫌いな人は日・時間を変え対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	リビングにソファベッドの設置、仮眠スペースをもうけている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	併設施設の看護師による毎日のバイタルチェック、また、提携医療機関の医師、看護師の指示を仰ぎ、服薬管理している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一週間に一度は、全員で外出し、アリオでの買い物、喫茶店での団らんを楽しむ支援をしている。また、弁当、おやつを持って花見へいくこともある。天候が良い時は、散歩をすることになっている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	定期的に家族とともに、演劇観戦、公演、花見などに行く。	日常的な外出は利用者の体調・天候に合わせ、廻りの田畑や、グループの中庭、施設の庭に出、外気浴もかねて過ごしている。又遠出は家族の協力も得ながら長居公園・鶴見緑地・春の花見・温泉施設等に出かけ楽しんでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族の了解の下、できるだけ支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の状況に応じて支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	照明器具は、インバーターで照明に気を使っている。窓、戸は、二重サッシにし、外部の音、温度を遮断して、心地よい空間をつくっている。	居間やキッチンが広く・明るく・清潔感があり又窓は二重サッシにし防音・温度調整で、心地よい空間となっている。フローアはクッション床になっている。空気清浄機も居間・居室にも配置され、風邪対策にもなっている。中庭もあり緑豊かで和んだ場となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	その時によって、工夫をしている。(下の階の他目的室または、併設施設を利用する。)		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの家具、仏壇を置いている利用者もいる。	居室は家庭の延長の趣があり、家庭での馴染みの家具・テレビ等が持ち込まれている。家族よりのメッセージ・家族の集合写真が貼られ居心地の良い空間となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各部屋の名札は、果物の絵をはっているなどの工夫をしている。		